

2025年に向けての歯科食支援研修プログラムを考える

摂食嚥下という言葉が出始めて約30年の年月を迎えます。その経過の中で介護保険を含めて様々な経緯があり、この分野を勉強・実践する方も増加し学会等も増大している。歯科においても地域に根付いて食支援を行う医療者も増えてきましたが、人口の20%が後期高齢となる2025年に向けて、地域歯科の食支援体制が整っているかという問題に対しては『否』というのが現状であると思います。

訪問歯科診療・咀嚼回復・口腔ケア・口腔リハ・食支援・摂食嚥下・災害歯科という療養生活では必須の分野に対して、**既存開業歯科が踏み込みにくい理由**が存在するはずであり、その課題を解決するプログラムが必要とされます。

そこで、本編では既存研修や専門書では、あまり書かれていない**臨床的な視点でたたき台となる資料を作成し**、多くの意見を聞きながら歯科初心者が導入しやすいプログラムを構築していきたいと思います。

本資料はHDC会員へのサービスの一環として、事務局への問い合わせなく**会員が自由に、本資料を友達に教えたり渡したり、歯科医師会や勉強会で使用してかまいません。**

<特徴>

- ① 臨床視点の研修であり1単元が30-40分で完結し、各単元にポイントを習得できる内容とした。
- ② 認知・咀嚼・嚥下・食支援というウエイトを平等に考え、嚥下まで全てをマスターしなくても臨床現場で学ぶというプログラムに配慮した。（認知症の人への咀嚼維持と食支援という分野を追加）
- ③ **食事観察（ミールラウンド）**と**予後予測**という項目に対してハードルを越えやすい工夫を凝らした。

<たたき台資料>

- ① 初めの一步（初級～中級編）
 1. 訪問器具の準備
 2. 口腔ケア医療・介護レセプト
 3. 認知症の基礎知識と食の問題
 4. 摂食嚥下のメカニズムと食事観察
 5. はじめての口腔ケア @執筆歯科衛生士募集
 6. 災害・生活困窮者に対する歯科支援 @執筆者募集
- ② 口腔リハ中級
 1. 認知症における食の行動心理行動
 2. 脳血管障害の基礎知識と食の問題
 3. 頸部聴診から得られること
 4. 摂食嚥下障害の予後予測と治療方針の立て方
 5. 口腔ケア・食支援実践と多職種連携の役割 @執筆歯科衛生士募集
- ③ 全国在宅療養支援歯科診療所連絡会会員の活動 @執筆者募集
 1. 私たちの地域活動
 2. 市民への啓発
 3. 全国在宅医療医歯薬連合会大会
(社)全国在宅療養支援歯科診療所連絡会 大石善也